

第 16 回 ちゅうでん教育振興助成（平成 28 年度）

報告書資料 一般-118

学校名・団体名	熊本市立出水南小学校
HPアドレス	<a href="http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/izumiminamies/">http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/izumiminamies/</a>
コース	学校支援
活動・研究テーマ	江津湖の自然にふれ、環境保全の大切さを発信しよう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>ふるさとの自然を体感し、環境保全の教育を推進しようという試みは、17年前から始まり、本校の伝統的活動となり、毎年度5年生の創意工夫を生かした取組が楽しみな活動となっている。</p> <p>5年生が、地域の方々や自然環境・環境問題についての専門家とふれあいながら、ふるさとの「江津湖」を中心に、自然を探索したり、体験学習をしたりすることで、自然の素晴らしさやよさを知り、ふるさとの豊かな自然を守っていかうとする態度を養うとともに、広い視野に立ち環境保全の大切さを意識した生活ができるようにし、持続可能な社会形成の一員としての活動につなげる。</p>	

【導入期】

(6月2日)・地域の水や空気・樹木等の環境調査や町づくりコンサルタントを専門とされている岡 裕二先生をお招きし、江津湖(加勢川)の湧水や生き物、江津湖の歴史などのガイダンスをお聞きした。また、担任からこれまでの先輩たちが行った追究活動例を聞いた。これから調べていきたい自分の課題をおぼろげながら意識した。

(6月9日)・再び岡 裕二先生をお招きし、実際に江津湖(加勢川)を訪れた。学校から入水目的地(加勢川左岸)へ向かう中で、湖畔の生き物(植物や虫・野鳥など)を観察しながら歩いた。現地では、水の事故等諸注意を受けた後、湧水の多い場所に入って、水の温度や豊かさを体感し、さまざまな生き物に触れ、豊かな自然の素晴らしさを満喫した。岡 裕二先生から、この豊かな環境を守るために、たくさんの方々が活動されていることも伺った。いつも何気なく眺めている江津湖に、こんな身近に豊かな自然が存在していることを体験し、子どもたちは学習のテーマである「江津湖の環境まもり隊」を意識するようになった。

(7月)・夏休みの自由研究の題材に「江津湖の自然」も選択できることを意識させ、各自がもっと調べたい課題を設定し、休み中に追究活動をするよう働きかけた。

1学期は、4月の熊本大地震の影響で臨時休業日が続き、学期の授業時数が厳しかったので、江津湖での体験は1回だけとなった。また、1学期の中間まとめとしての豊かな自然をアピールする新聞作成もできないままであった。



【展開期】

(8月末)・夏休みの自由研究として江津湖に関する研究を行えたのは2人だった。教室にて発表会をもち、情報を学級で共有した。

例年になく江津湖の自然を選択した子どもが少なかった。子どもだけで江津湖を訪れることができない。地震の影響で夏休みが短かったこと、地震の後始末や生活再建など保護者も児童も多用だったこと、余震が続き水際の訪問が敬遠されたことなどが考えられる。

(9月)・社会科「わたしたちのくらしと工業生産」の学習を受けて、水俣市を訪問した(熊本県では、小学校5年生は全員、水俣市を訪問し、国・県・水俣市の施設を訪問して、語り部の体験をお聞きしたり、水俣病の歴史や現在の環境問題について学習したりするよう整備されている。)。施設の見学し、水俣病についてさらに正しく理解をした。また語り部のお話を聞き、経済を優先し、いかに命が大切にされているか、また病気の補償をめぐっての差別が行われてきたのか等を知った。国内や世界の環境問題へ視野を広げ、その解決や環境保全活動について考える手がかりとなった。

(10月4日)・熊本博物館の清水稔先生(動物学)・山口瑞貴先生(植物学)を講師にお招きし、江津湖を訪れ、湧水に入ったり、公園化された緑地を歩いたりして、水生生物の採集や観察、植物・野鳥等の観察を行ったり、生態について調べたりする体験をした。改めて、身近に豊かな自然があり、環境保全の大切さの意識を高めることができた。

(10月~11月)・もっと知りたいことを中心に課題を定め、観察会で見てきた生き物などをさらに詳しく図鑑で調べたりインターネットを介して調べたりした。そして新たに生まれた疑問を講師にお尋ねすることにした。

(11月1日)岡 裕二先生、熊本博物館の清水稔先生(動物学)・山口瑞貴先生(植物学)と、新たにくまもと淡水魚研究所長の藤井法行先生、熊本博物館の



木山貴満先生（歴史学）を加えた5人の先生に登壇いただき、5つの教室に分かれて、講演をお願いした。子どもたちは自分のもつ課題に合わせて、お話を聞きに行き、質問をした。その後、さらに追究活動を行った。

子どもたちは、熊本の上水道や地下水については、4年生時に社会科で学習しているものの、その仕組み等についての認識はまだ浅い。江津湖の豊かな湧水や、熊本市民74万人の上水道を支える熊本の地下水について、東海大学の市川勉先生からお話を伺うことを計画していた。目に見えない地下の様子を想像したり、地下水保全についての取り組みを知ったり、自分にできる地下水保全の取り組みを立案し実践できるようにしたりと考えていたが、時間不足のため、残念ながら実現できなかった。6年生での学習につなげることにする。



- (1月20日)・数百年の歴史と伝統がある肥後野菜『水前寺もやし』。年中水温の变化の少ない江津湖の湧水を利用した『水前寺もやし』の栽培農家・米満様ご夫妻ご指導のもと、江津湖の一角、芭蕉園にて、種まき・栽培体験を行った。冬でも温かい湧水を実感し、それを活用した冬の『水前寺もやし』の栽培を体験できた。



- (2月2日)・2週間が経ち、再び湧水に入り、『水前寺もやし』の収穫を体験した。大豆の種がこの2週間で30cmにも伸びていて、新聞紙や筵・藁を力強く、見事に持ち上げていて、びっくりさせられた。

- (2月3日)・保護者の協力を得て、『水前寺もやし』を使った雑煮会を行った。この一年の学習から感じたことなどを交流し、お世話いただいた農家の方々に感謝し、また自然の恵みに感謝する機会となった。



#### 【終末期】

- (2月20日)・これまでの体験と追究活動を振り返り、また講師を務めてくださった方々の思いや願いも含めて、保護者向け活動啓発のプレゼンテーションにまとめた。試作の段階で、子どもたち同士で交流したり、岡裕二先生及び熊本博物館の清水稔先生・山口瑞貴先生・木山貴満先生の4人をお招きしてアドバイスをいただいたりした。各先生からは、様々な生き物がいたこと・江津湖がこのような歴史があることなどの事実ばかりでなく、この一年の学習を通して、自分自身の自然の見方や考え方がどのように変わったか、環境保全に対する思いがどのように変わったかをもっとアピールするようにと指摘をいただいた。

- (2月24日) アドバイスいただいたことを生かして、プレゼンテーションを完成し、保護者へ発表した。

- (2月末～3月始) 一年の学習のまとめを行う。自分自身の自然の見方や考え方の変容、環境保全に対する思いの変化などを文章にまとめた。

#### <活動の成果>

- ・地域の方々や自然環境・環境問題についての専門家の話を聞き、環境保全やそれに向けた取組、願い等を知ることができた。
- ・講師をお招きして、自然あふれる身近な環境を大いに生かした体験ができた。実際に江津湖に入り、自然にふれることができたり、その自然をうまく利用した肥後野菜である『水前寺もやし』を栽培・収穫・試食ができたりするなどの実体験ができ、達成感ある活動となった。
- ・子どもたちは、身近にある大自然（江津湖）や湧水による豊かな自然の素晴らしさを実感し、それらをこれからも守っていききたい、守っていくために自分は今こんなことをしたいという願いを創出することができた。また、創意工夫した豊かな表現活動ができた。